

WHX Osakaにて大阪府主催「グローバル・ライフサイエンス・ラウンドテーブル&ワークショップ」を実施
世界のライフサイエンス・クラスターが大阪に集結し、ヘルスケアディープテックの「世界標準」を議論

【問い合わせ先】一般財団法人未来医療推進機構 広報担当
TEL：06-6690-8973／Email：pr@miraikiko.jp



グローバル・ライフサイエンス ラウンドテーブル&ワークショップの登壇者の皆さま

未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross（中之島クロス）」を運営する一般財団法人未来医療推進機構（大阪府北区、理事長：澤 芳樹。以下「当機構」）は、2026年7月2日（木）、「WHX Osaka 2026」にて、大阪府主催の「ヘルスケアディープテックのスタートアップエコシステムの世界標準とは ― 海外ライフサイエンス・クラスターと考える、グローバル展開を支える仕組み ―」を実施しました。

本イベントは、大阪府「グローバル・ライフサイエンス・ラウンドテーブル事業」および「海外ライフサイエンス・クラスター連携促進事業」の一環として、当機構が受託事業者として開催したものです。欧州、北米、豪州等の主要なライフサイエンス・クラスター、イノベーション拠点、スタートアップ支援機関のキーパーソンを迎え、ヘルスケアディープテック・スタートアップが国境を越えて成長するために必要なエコシステムの機能と、国際連携を具体的な事業成長につなげる仕組みについて議論・共有しました。

開催の背景

再生医療、創薬、医療機器、デジタルヘルス等のヘルスケアディープテック領域では、研究開発から実用化までに長い期間を要し、臨床現場、規制・制度、製造、資金、人材、事業会社、海外市場等への接続が事業成長を左右します。優れた技術を患者や社会へ届けるためには、個別の支援にとどまらず、研究・医療・産業・投資をつなぐ継続的なエコシステムが不可欠です。

大阪府と当機構は、大阪・関西万博等を契機に構築した海外主要クラスターとのネットワークを継続的な連携へと発展させ、中之島クロスを起点としたグローバルなスタートアップエコシステムの形成を進めています。本イベントでは、各国・各拠点の実践を共有し、大阪・中之島クロスに必要な機能と、スタートアップの海外展開を支える具体的な連携のあり方を検討しました。

当日の主な内容

■ 第1部 | グローバル・ライフサイエンス・ラウンドテーブル

冒頭では、山口 信彦 大阪府副知事が開会挨拶を行い、WHX Osaka 2026 をライフサイエンス分野の国際的な知見を共有する場と位置付け、世界各国の関係者との対話を通じて、グローバルなスタートアップエコシステムの形成を大阪から進めていくことへの期待を述べました。

続いて、澤 芳樹 当機構理事長が「ヘルスケアディープテックを世界へつなぐ拠点戦略」をテーマにキーノートを行いました。iPS細胞由来心筋シートをはじめとする再生医療の社会実装を例に、日本の優れた研究成果を世界へ届けるためには、研究・医療・産業・投資が連携し、事業化とグローバル展開を同時に支える仕組みが重要であることを示しました。

RegMed XB（オランダ）、Cell and Gene Therapy Catapult（英国）、Lead Discovery Center（ドイツ）、在大阪スイス領事館 Swissnex in Japan（スイス）、CIC（米国）、MedTech Actuator（豪州）の各登壇者が、再生医療、細胞・遺伝子治療、創薬、MedTech 等の分野におけるスタートアップ支援とエコシステム形成の取組を紹介しました。

池野 文昭 氏（Stanford Biodesign）のモデレーションによるパネルディスカッションでは、医療機関、研究機関、企業、スタートアップ等が集積する NQ の環境を活かし、世界の拠点と継続的につながる仕組みを構築する必要性が示されました。

■ 第1部ご登壇者

- ・山口 信彦 氏（大阪府 副知事）
- ・澤 芳樹 氏（一般財団法人未来医療推進機構 理事長）
- ・ベルナルド・マルダー氏（RegMed XB ジェネラルマネージャー）
- ・ジョン・ケリー氏（Cell and Gene Therapy Catapult トランザクション・海外事業開発部長）
- ・パート・クレブル氏（Lead Discovery Center GmbH マネージングディレクター兼 CSO）
- ・フェリックス・メスナー氏（スイスネックス・ジャパン CEO/在大阪スイス領事館 領事）
- ・ミッシェル・オッティ氏（CIC Campuses and Labs プレジデント）
- ・ヴィシャール・キショア氏（MedTech Actuator 共同創設者）
- ・池野 文昭 氏（Stanford Biodesign, Stanford University ファカルティ／モデレーター）
- ・オドゥオリ オケチ 氏（一般財団法人未来医療推進機構 国際部 部長／総合進行）



ご挨拶 大阪府副知事 山口信彦氏



キーノートスピーチ
未来医療推進機構理事長 澤芳樹氏



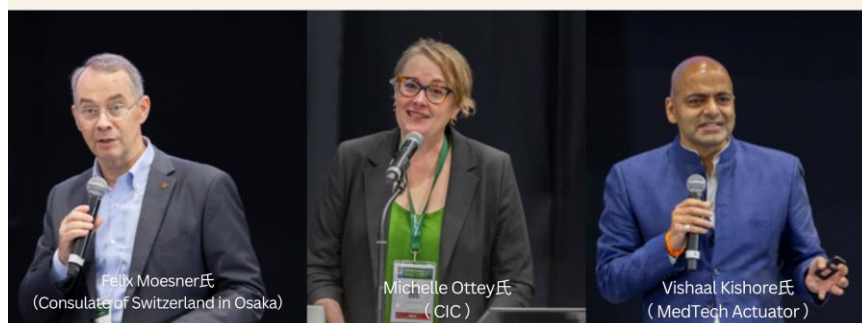
総合進行
未来医療推進機構国際部部長
オドゥオリ オケチ氏



第1部 パネルディスカッションの様子



第1部ご登壇の皆さま

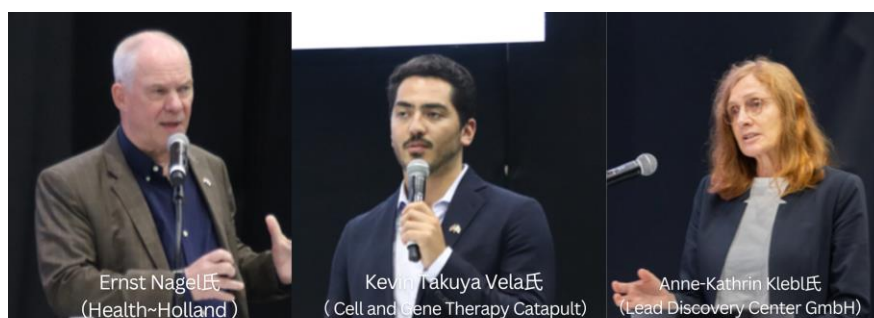


■ 第2部 | グローバル・ライフサイエンス・クラスター ワークショップ

第2部では、各国・各拠点でエコシステム形成やスタートアップ支援に携わる登壇者が、アクセラレーションプログラムをはじめ、臨床・KOL・専門家ネットワーク、規制・制度、市場、投資家、事業会社、共同研究・PoC等への接続機会を紹介しました。あわせて、有望な研究シーズの発掘、成長段階に応じた支援、製造・臨床・規制・資金調達への接続、経営人材の育成、海外展開など、研究成果を事業化へつなげる仕組みや、知的財産、法務、事業開発、専門家ネットワーク等の支援基盤の重要性が示されました。さらに、早期から国際展開を見据え、日本発スタートアップによる海外拠点の活用と、海外スタートアップの大阪・日本への展開を支える具体的な連携のあり方について、実践的な知見が共有されました。

■ 第2部ご登壇者

- ・エルネスト・ナジェル氏 (Health-Holland オペレーションズ・ディレクター)
- ・ケビン・タクヤ・ヴェラ氏 (Cell and Gene Therapy Catapult 戦略連携担当 シニアマネージャー)
- ・アン・キャサリン・クレベル氏 (Lead Discovery Center GmbH チーフ・オペレーションズ・マネージャー)
- ・ハーバート・ロイトマン氏 (Unitectra 前CEO)
- ・デニース・メドレンカ氏 (CIC CEO)
- ・マケンズィ・トーマス氏 (MedTech Actuator & Synthesis Capital ポートフォリオ・オペレーションマネージャー)
- ・オドゥオリ オケチ 氏 (一般財団法人未来医療推進機構 国際部 部長／総合進行)



第2部ご登壇の皆さま



第1部・第2部を通じて得られた知見

両部を通じ、優れた科学技術を患者価値へつなぐには、研究・臨床・規制・製造・資金・人材・市場を一体的につなぐ運営基盤が不可欠であることが示されました。知的財産、契約、事業開発、プロジェクト管理、データ品質等の「目に見えないインフラ」を早期に整え、長期資金を技術・事業上のマイルストーンと結び付けることが重要です。

また、国際化は開発後期の活動ではなく、臨床・規制・製造・市場のグローバル要件を初期から組み込む設計原則です。大阪・中之島クロスの強みと海外クラスターの専門性を相互補完的につなぎ、継続的に活用できる経路を構築する必要があります。

今後の展開

当機構は、中之島クロスを核として、国内外のライフサイエンス・クラスター、企業、スタートアップ、投資家、大学・研究機関、医療機関、支援機関等との継続的な関係形成を進めます。海外拠点との相互紹介、支援プログラムや専門家ネットワークへの接続、事業会社・投資家との交流等を通じて、日本発ヘルスケアディープテック・スタートアップのグローバル展開と、海外スタートアップの大阪・日本への展開を促進してまいります。

【一般財団法人未来医療推進機構 概要】

名称	一般財団法人未来医療推進機構
所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島4丁目3-51 Nakanoshima Qross 6F
代表者	理事長 澤 芳樹
URL	https://www.nakanoshima-qross.jp/
設立年月日	2019年11月22日
概要	再生医療をはじめとする「未来医療」の実用化・産業化およびその提供を通じた国際貢献を推進することを目的に、産官学医の多様なプレイヤーが一つ屋根の下で集い、交流・共創を加速できる拠点「Nakanoshima Qross」の形成・運営を担っています。